



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和3年6月30日
7月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

気づき得る

こうちょう さんべい あつし
校長 三瓶 淳

なかよし活動（ペア遠足）では、上級生が下級生の手本となる行動がたくさん見られ、子どもたちのよさを見たり、気づけたりすることができよい形で6月を締めくくることが出来ました。

さて、来年4月1日からは成年年齢が引き下げられ、今年の6年生は、小学校に在籍していた期間と同じ6年間を過ごすこととなるのです。自分で「判断・決断・実践」できるように力を付けていかなければなりません。私は、50歳を過ぎたころから「気づき」を大事にするようになりました。世の中の出来事や人との関わりの中で無駄なことは一つもないということに気づいたからです。出来事や人物に対していろいろな見方、考え方をすることで、自分になかったものや知らなかったこと、役に立つことが見つかります。これは、だれにでも平等に現れてくることと思っています。それに「気づく」か「見逃す」かということではないでしょうか。また、子どもたちや先生方に話をする機会の中で、できるだけ身近なことを中心に事実を伝え、そこから「どうすべきか、どうすることがよりよいか」を考えてもらうようにしています。すると嬉しいことに、「ぜっ校長先生（私の愛称）、私ね・・・」や「校長先生、実は・・・」と話をしたことに対しての意見や感想を伝えてくれる子どもや職員が増えました。私は、指示されたり分擔されたりしたことを実行することだけで満足する子どもたちから（もちろん、出来たことを否定する訳ではありません）、さらに「気づき」をもち、そこから何かを自分の力で「判断・決断・実践」できる子どもたちになって欲しいと思っています。

ところで、「ドラゴン桜」というドラマがありました。簡単にいうと、学力的に低い生徒が、東大合格を目指すというストーリーです。ドラマの中でいくつか気づいたことがありました。義務教育である小・中学校の学習を教科書中心にしっかりと踏まえる（理解する）大切さや目標設定したら、壁が立ってもそれを乗り越えようとする強い気持ちを持ち続ける大切さです。「それなら、うち（城郷小）の子どもたちでも今からできそうだな。」そんな事を思いながら、毎日授業を受けている子どもたちを見守っていますが、現状は様々です。椅子とお尻が友達になっていない子や「出来ません。」「ムリです。」と言って諦めてしまう子も目にします。しかし、そんな子たちでもきっと集中してできる事や好きな物があるはずで、そのことに「気づき」、その力をいろいろな場面に使えるようにするだけで、授業を受ける態度や意欲にも変化が表れてくるのではないのでしょうか。本人がそれに「気づく」のが早いか遅いかで、つかみとるチャンスや成功体験にも違いが出て来るのだと思います。

今年の夏休みは37日間。昨年度は2週間程度でしたので、倍以上あります。今年から、上にあげた意図や本校の目指す子ども像を意識し、夏休みの過ごし方に一石を投じたいと思います。ご家庭の協力をいただきながら、子どもたち一人ひとりが、それにどう「気づいて」、どのように過ごすか、楽しみです。